



# 学校だより

第6号 ジャカルタ日本人学校  
令和7年(2025年)8月29日  
発行:校長 谷口幸一郎  
TEL: 021-745-4130

## 2学期 開始

早いもので、夏休みも**あっという間**に過ぎていってしまいました。ジャカルタでゆっくりした子供、旅行をした子供、日本に一時帰国した子供、そして中学部3年生にとっては、入試に向けてのまさに天王山だったのではないのでしょうか。各人が思い思いの夏を過ごしたと思います。「**何かできるようになること**」、終業式の時に子供たちをお願いしたことです。いかがだったでしょうか?様々な学習課題に取り組むと同時に、自らの自由研究など、夏休みにやったことがたくさんあったのではないのでしょうか。

始業式に「何かできるようになりましたか」と尋ねると、多くの子供たちから口々に回答がありました。これからの学校生活でも「できること」をどんどん増やし、自信をつけていってほしいと思います。いずれにしても、一番、**うれしかったことは、子供たちが大きな事故もなく、学校に帰ってきてくれたことです。**

また、様々な行事がある2学期を充実したものにしてほしいと思います。

## 優秀運転手・添乗員表彰式

「SD4、〇〇さん、忘れ物です。」と言って届けてくれる添乗員の方々。毎朝、添乗員の方々がバスをチェックして忘れ物を届けに来てくれます。子供たちがバスを降りた後、バス内を確実に見てくれています。数年前、日本では幼稚園生がバスに置き去りになり、命をおとってしまうという痛ましい事故が起きてしまいました。ニュースで取り上げられても、その後も何回か同じ事故が起きてしまいました。添乗員の方々が行っている、子供がバスを降りた後の点検、これは子供の安全確認にもつながっています。ありがたいことです。

7月16日、バスの運転手、添乗員の中から、それぞれ3名ずつがその働きが優秀だということで、**BB(ブルーバード)社、及びASBOからの表彰**がありました。私を含め、BB社やASBOの代表から賞状と記念品を授与させていただきましたが、受賞者の皆さんはもちろん、その他の運転手さん、添乗員さんとても喜んでいました。インドネシアの習慣なのでしょうか。慎重に厳粛に行う日本の受賞式とは異なり、ギターを伴奏に歌って楽しむという式になりました。



## 夏休み中の学校

子供たちが**学習をしやすい環境作り**のために、夏休みの間、**学校の至る所で作業**が行われました。1年生教室の電灯をLEDに、小学部プールの補修、鯉を飼っている池の補修、ジャングルジムの補修、中学部家庭科室の調理台交換などが行われました。急ピッチの作業なのでたくさんの工事関係者が暑い中、頑張っていました。プールは10月まで工事が行われますが、他の工事はすでに終了しています。



また、学校園には、4年生のキュウリ、6年生のホウセンカ、1年生の芋などが植えてありました。学校のカリヤワンさん達が世話をしました。びっくりしたのは、4年生のキュウリ、ひとつの苗から3本も実をつけているものもありました。とても生育がよかったです。(思わず家に持ち帰り、食べてみたかった。)

**新しくなった環境**でさらに充実した学校生活を送ってほしいですね。

## 戦後 80 年経っても

今年の 8 月 15 日は日本各地で平和を願う式典が行われました。特に 8 月 6 日の広島「平和記念式典」、8 月 9 日の長崎「平和祈念式典」では、例年、世界に向けて核兵器根絶、平和希求を訴えています。また、今年は**節目の 80 年を迎え**、改めて世界 196 か国、地域の代表の方々の参加の下、盛大に行われました。

実は、本校の**4 年生の皆さんが平和への思いを込めて、千羽鶴を折ってくれました**。そして、その思いを原田先生が原爆の子像に届けてくれています。今後、4 年生だけではなく、学校全体として平和教育に取り組んでいけたらと考えています。

そのような中、長崎では歌手の福山雅治さんが「**クスノキ**」という歌を作り、市民が一丸となってこの歌を歌い、平和への願いを訴えました。その歌詞を紹介します。是非、家族で本詩を鑑賞してみてください。

### 「クスノキ」

♪我が魂は この土に根差し  
決して朽ちずに 決して倒れずに  
我はこの丘 この丘で生きる  
幾百年越え 時代の風に吹かれ  
片足鳥居と共に  
人々の営みを  
歓びを かなしみを  
ただ見届けて

♪

♪我が魂は 奪われはしない  
この身折られどこの身 焼かれども  
涼風も 爆風も  
五月雨も 黒い雨も  
ただ浴びて ただ受けて  
ただ空を目指し  
我が魂は この土に根差し  
葉音で歌う 生命の叫びを

♪

作詞・作曲 福山雅治

## 地震大国 インドネシア

「ぐらぐら」と大きな揺れがありました。20 日の夜だったのでしょうか、思わず身構えてしまいました。日本だと日常になっている地震ですが、インドネシアは世界でも有数の地震国です。もちろん、日本とは国土の広さの違いはありますが、ほぼ毎日どこかで地震が起こっているようです。

さて、**9 月 1 日は「防災の日」**です。大正 12 年のこの日の正午近く、関東大震災が起こり、13 万人の死者と 10 万人の負傷者、58 万戸の家が壊れてしまいました。お昼時のこともあり、各家庭では火を使っていたことが大きな火災を招き、このような被害が出たと言われています。「この経験を教訓として、**様々な災難の発生に常に備えておこう**」という趣旨で、防災の日が制定されました。

その後、阪神淡路大震災、東日本大震災が起こるなど、一瞬の天災が多くの人々の命、財産、日常生活を奪ってしまいました。地震だけではなく、今年の夏は、日本各地で大雨が降り、川の氾濫により人々の命が奪われてしまいました。人々は、いつも自然の猛威を思い知らされています。

本校でも避難訓練は実施する予定ですが、まずは、子供一人一人が「地震が起こったら、どうするのか。」を考えておく必要があります。「**自分の命は自分で守る**」この機会に家族でも話し合っておいてください。